

# 第3回 富士市立小中学校 再編計画等策定委員会

<b>日時</b>	令和8年5月18日（月） 14:00~16:00		
<b>場所</b>	富士市消防防災庁舎3階 研修室		
<b>出席者</b>			
[委員]			
橋本 仁	濱嶋 祐樹	中山 聡一郎	本多 佐和子
武井 敦史	齋藤 清隆	千葉 辰夫	若林 努
[事務局]			
	教育次長、教育総務課長、学校適正配置推進室長 ほか		
<b>傍聴者数</b>	2名（報道2）		

## 会議の概要

### 委員長挨拶

<b>武井委員長</b>	社会環境が大きく変化する中で、学校の在り方も長期的視点のもと慎重に検討する必要があります。学校というものは一度設置すれば60年以上影響が続くため、軽率な判断はできません。子どもたちが大人になるまで続く制度になることを踏まえ、長期展望のもと知恵を結集して議論を進めたいと考えていますので、よろしくお願いします。
--------------	--

### 報告事項

#### (1) 統合後の跡地活用例～(3)最新の児童生徒数推移

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

<b>武井委員長</b>	今の事務局からの説明について、質問等があったらお受けしたい。
<b>A委員</b>	東小の2・3年は市単で複式解消、4・5年は県加配で複式解消とあるがこの体制は来年度も続けていくのか。
<b>事務局</b>	資料からわかるように、今後単学級の増加が予測されます。今後、複式学級が出た時に、できれば解消する方向でいきたいというのが今の考えです。 県加配がつかない場合、市単独での対応も必要となる可能性があります。

協議事項

(1) 適正規模・適正配置基本方針の改定について  
具体的な方向性(案)新旧対照表

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

<p><b>C委員</b></p>	<p>教育環境の整備は重要ですが、特に若年層では学校統合時の精神的負担が大きく、家庭環境への影響も考慮する必要があると思いますが、統合時に対応を行った事例はありますか。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>吉原東中と吉原三中の統合では、不安軽減のため4～5月に生徒全員に教育相談を実施しました。スクールカウンセラーの配置には限界がありますが、統合時には必ず配慮すべき事項と考えます。</p>
<p><b>G委員</b></p>	<p>少人数で過ごしてきた吉永二小の児童は、吉原北中に進むと大勢の中で対応が難しくなる子がいる。この点は保護者も心配しているので、再編をもっとスピードを上げて進めてほしい。</p>
<p><b>武井委員長</b></p>	<p>資料中の「18人未満の単学級」という基準について、施設一体型小中一貫校と義務教育学校に限らず、中学校区内で統合した場合も同様の問題が生じる可能性があります。</p> <p>例えば、大淵中学校区は0歳児が23人であり、中1の人数に比べて極端に少なく、将来的に基準を下回る可能性があります。また、富士川第二中学校区も5歳児が20人で小1になる来年には基準に該当する状況が生じる。</p> <p>このような場合、当面様子見とすることが適切かは検討課題と思いますが事務局の考えを伺いたい。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>現在、複式学級の対象校や18人未満の単学級が存在する学校を含む中学校区については、小中一貫校をこの部分から進めていきたいと事務局では考えています。</p> <p>委員長ご指摘のように、長期的には中学校区再編も必要となる可能性はありますが、「地域とともにある学校づくり」や「小中連携・一貫教育基本方針」の推進を中学校区で行っている状況を踏まえると、中学校区を直ちに再編することは難しいと考えています。</p> <p>当面の間の考え方として、本市は総合計画の人口推計を5年ごとに見直しており、その時点で必要に応じて基本方針を再検討していきたい。</p>

<p><b>武井委員長</b></p>	<p>当面の間は中学校区を維持し、その後、将来的には中学校区の再編を進めるという段階を二度に分けて行うことは、子ども・保護者双方に心理的な負担が大きい。将来的に18人を下回ることが明らかである場合、段階を分けて一度に再編の方が望ましいという考え方もあります。</p>
<p><b>H委員</b></p>	<p>富士川第二中学校区の5歳児は20人だが、転出などによって、小1にあがる来年には18人を下回る場合も想定されます。</p> <p>中学校区の再編は距離の問題も大きく影響しますが、現実的に難しいエリアもあります。バスを用いれば統合可能な場所もあるが、その際は地域との調整が求められます。</p>
<p><b>武井委員長</b></p>	<p>資料3を見ますと、市全体の人口減少速度と比べ、特定の校区の減少スピードが顕著であると思います。</p> <p>0歳児と小6の人数差から見て、4分の1から4分の1以下になっている地域があることから、保護者が「友達関係の狭まり」や「子どもの将来」を不安に感じ、転居を選択する動機ともなりうる。</p>
<p><b>F委員</b></p>	<p>当地区では過去に小学校の統合に際し、2校を単純に合わせるのではなく、児童生徒数のバランスを保ちつつ、教育活動への影響を最小化するために区域を再編・編成替えした経緯があります。</p> <p>今回の再編では単純な統合でなく「区域の再編」も選択肢に入れていいますか。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>区域再編の可能性はゼロではないですが、現段階で想定していません。ただし、可能性として、一部の中学校区では中学校を分割し、小中一貫校を別々に設置する選択肢も視野に入れていきます。</p> <p>また、現状では区域レベルの再編は想定していませんが、今後の人口動態次第では検討が必要になる可能性はゼロではありません。</p>
<p><b>F委員</b></p>	<p>まだ自分なりの全体の分析ができていない状況ではありますが、小学校区の分割を全く想定しないということは、本当に将来の規模適正化として成立するのか、懸念があります。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>現時点では、通学距離や交通手段等などの観点から、当面の間、中学校区を維持していかざるを得ないと事務局としては考えています。ただし、現在、適正規模を超えている過大校は富士南・富士・岳陽中学校区であり、その中での細分化の可能性はあります。</p>

<p><b>F委員</b></p>	<p>まちづくりの地区は小学校区単位に26地区あり、そこを中心に町内会やまちづくり協議会が存在しています。</p> <p>学校再編は児童生徒の教育環境が第一だと思うが、現在コミュニティスクールが進んでいて地域と学校の連携が進んでいる時に学校の統合が決まれば、地域単位の見直しにも影響すると思います。</p> <p>市はそこまで踏み込んで検討しているのでしょうか。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>地区割りについては、市として一方的に変更を求めることは考えていません。地域コミュニティは長い歴史を持つため、教育委員会の判断で再編を促す立場にはないと考えていますが、学校再編によってその必要性が生じた場合は、まちづくり課等と連携していく可能性はあります。</p>
<p><b>B委員</b></p>	<p>しっかり情報を出していただきたいことと、学校再編ではありますが、まちづくりがないがしろにならないように対応をお願いしたい。</p>
<p><b>武井委員長</b></p>	<p>各地区は小学校区を基本としているため、小学校区を統合することはあっても分けることは無いと思われます。</p> <p>富士市は中学校区にうまく小学校区が入っていることもあるので、それを活かしたいというのが事務局の考え方です。</p> <p>ただ、学校が無くなる可能性があることを踏まえると、今の時点でどのような対策を考えていくかが、この会での議論になると思います。</p> <p>可能なこととして、例えば学校間連携であるとか、小規模校の良さを活かした教育を積極的に取り入れるとかの手立てを打っておくなど準備しておけば、心配事を軽減することができると思います。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>数が少なくなってきたところをすぐに統合できれば一番ですが、できるところできないところがあります。統合により山を越えなければいけないとはいえ、なかなか簡単にバスを出すことも難しいです。</p> <p>本市では、小規模校が学びの幅を広げるためにオンライン授業の研究を進めているところです。また、今まで以上に学校間連携や合同授業の回数を増やしています。</p>
<p><b>武井委員長</b></p>	<p>小規模校は自然教室や修学旅行、体育大会などが成り立ちにくくなっていますが、そういった部分を学校連携により一体で実施するなどの検討を始めることも必要ではないでしょうか。学校間で合同で実施して反対という声はあるのでしょうか。</p>

<b>G委員</b>	吉永第二小と神戸小は修学旅行を一緒に行っています。
<b>武井委員長</b>	大切なのは学校間の連携を強めていくことと、その良さを生かすこと、人間関係もダイバーシティが一定程度確保されている状況を作るように努力していくことが挙げられます。
<b>B委員</b>	本来は「子どもの教育を中心」に再編を考えるべきであって、建物ベースや地区割りで検討が進んでいくのは違うかなと思います。 お金がないなら企業に協力してもらおうなどの検討も必要です。
<b>武井委員長</b>	地域スポーツクラブの広域活用、学校間の合同行事など、小規模校の教育環境改善のためにできる施策は多数あります。教育委員会が主導し、校長任せにせず戦略的に取り組んでいくことが必要です。
<b>E委員</b>	18人未満の単学級が発生した場合というのは、18人未満の小学校と考えればいいでしょうか。
<b>事務局</b>	中学校区内に複数小学校がある場合、そのうち一つでも18人未満の単学級が発生したら、中学校区内まとめて同時に小中一貫校に再編を検討していくということです。
<b>E委員</b>	分類は施設分離型でなく施設一体型を目指すという方針でしょうか。
<b>事務局</b>	松野学園は施設一体型ですが、やはり施設一体型の方が濃密な小中一貫教育が可能になることは様々な事例で把握していますので、同じ場所で進めていきたいというのが考えです。 ただし、特別支援学級、通級指導教室、放課後児童クラブなど、今の学校には昔より多くの教室機能が求められています。単純な「人数だけの議論」ではなく、施設機能面の考慮も必要であると考えています。
<b>E委員</b>	統合した場合、遊具はどうなりますか。
<b>事務局</b>	田子浦中の改築で説明しますと、グラウンドの空いているスペースに基準で決められた数の遊具を配置していく予定です。
<b>E委員</b>	遊具の扱いについて地域住民の方で気にされている方がいたので、情報を出していただけると助かります。
<b>武井委員長</b>	ありがとうございました。以上で一通り意見も出尽くしたようなので、事務局に進行を戻します。

### 3 その他（連絡事項）

- ・今回の議事録については、事務局で作成し、第4回の案内と一緒に送付する。

閉 会